西覚寺だより

特別号　年三回発刊

▼花まつりのかわりに

新型コロナウィルスが依然として、私たちの生活に甚大な影響を及ぼしています。みなさまも不安の中、日々お過ごしのことと思います。ご縁を頂いている門信徒の皆様方をはじめ、私の近しい身の回りに、感染された方が今のところいない、ということが、身勝手なことかもしれませんが、この大きな禍の中の唯一の救いだと思っています。

さて、今年は永代経法要に続いて、「花まつり」も中止することとしました。花まつりというのは、私たちに仏教という教えを遺してくださった、お釈迦様のお誕生日（４月８日）をお祝いする行事です、古くから日本で営まれてきました。しかし、最近は町中のお寺で催されていることが少なくなったような気がします。寂しいことです。

お釈迦様の誕生に関する逸話・伝説はいくつかあります。その中のひとつ、お釈迦様が生まれときにお話になられた言葉というものがあります。これは事実として受け止める、ということではなく、お釈迦様がお生まれになられた意義、仏教の教えの目的を言い合わらす言葉として頂きましょう。

「天上天下　唯我独尊
三界皆苦　吾当安之」

古今、宗派の別に限らず、この言葉の受け止め方については様々に言われています。私はこのお言葉は、次にように味わっています。

「尊いあなたのいのちが、苦しみではなく安らかなるものであるために、私があなたを導きます。」

これはずいぶんと直訳から取意させて頂いた、私なりの解釈です。

お釈迦様は、私たちのいのち・生活に、どうしても苦しみが存在する、その原因は何かをお示しくださった。そして、その苦しみから離れ、安らかないのちを送らせて頂くためにはどうしたらいいかを教えてくださった。その教えは、聞きての資質、人それぞれの個性にあわせて、すべての人が安らかなる道を歩めるようにお説き下さいました。誰もがその「安らかなる道」を歩めるように、さまざまに手段を示してくださったからこそ、お釈迦様の直説の教えである『お経』は、その種類が膨大になったのです。

ここに「仏教はややこしい。難解だ。」と言われる原因があります。あっちでは「座禅をして精神を平らかにしよ」と言ったり、こちらでは「私たちの心は煩悩が吹き荒び、平らかになること決してはない」と言ったりします。これだけ聞くと、話が違う、教えが違う、ややこしい、となります。が、これは「言っていることが違う」のではなく、その説法が向けられた「聞きての素質が違う」ということです。お釈迦様はその人その人に合った道をお示しくださいました。大切なことは、「私に合った道」に出遇うことなのです。

そのご説法の中で、お釈迦様は「阿弥陀様」という仏さまを、私たちにご紹介してくださいました。

浄土真宗のお葬儀の中で拝読する御文の中にこういうお言葉があります。

「今逢釈迦仏　末法之遺跡
弥陀本誓願　極楽之要門」

お葬儀で拝読する心持ちとしては、「末法という仏教が息づいているとは言い難い世に向けて、お釈迦様が遺してくださった阿弥陀様のみ教え。亡き方はその阿弥陀様のみ教えに出遇い、極楽浄土へ生まれ、仏さまという最尊のいのちを頂かれた。そして、ここに遺された私たちも、いま、阿弥陀様の極楽往生の教え、南無阿弥陀仏に出遇わせて頂いているのである。」

私たちが生きる世界は、思い通りにならないこと、それは我が心も含めて、そういうもので満ちています。何より思い通りにならないことが、いのちの有りようです。必ず、いのちを終えていかなければなりません。この世界は、必ず別れていかなければならないのです。そこには大きな悲しみ・苦しみがともないます。

そんな悲しみとともに生きる私たちに、お釈迦様は「阿弥陀様」のみ教えを遺してくださいました。亡き方は仏様といういのちを頂かれた。そして、私たちも、ゆくゆくはその亡き方が生まれたお浄土に参らせて頂くのです。

その道は決して揺るぎません。阿弥陀様が護って下さるから。先に往生された方の待つお浄土への道を、安心して歩ませて頂けるのです。南無阿弥陀仏のお念仏には、その大きな安心が込められているのです。